

米国北西部のリンゴは好天で「当たり年」

Northwest Public Broadcasting 2023年11月9日

北西部の多くのリンゴ生産者は、品質が良く、適度な大きさで、素晴らしい色のリンゴの豊作を喜んでいる。ウェナチー市のワシントン州リンゴ委員会を率いるトッド・フライホバー氏は、「ほとんどの理事会メンバーは、これを『当たり年』と呼んでいる。おそらく、少なくともこの10年で最高の作柄の1つだ」と、述べている(以下「」は同氏の発言)。今、業界は、ワシントン州から1億4千万箱(40ポンド/箱)近くのリンゴを出荷する先を見つけることに懸命に取り組む必要があると言えるだろう。

現在、ほとんどのリンゴは果樹園から搬出され、選別と梱包が行われている。貯蔵されるものもあれば、すぐに全米及び世界中の市場に出荷されるものもある。フライホバー氏は、今年は「適度な」年で、春は寒すぎず、開花期には寒波がなく、夏は暑すぎなかった、ちょうどよかったと述べた。「例年何度か雹を伴う嵐に見舞われる。一部の地域でその傾向が強い。しかし、一般論として、今年は天候が品質に影響しなかった。8月に入ってもこれまでのように100度(約38℃)や110度(約43℃)を超える気温は見られず、今年は質の高い作物を育てるのに理想的な年であった。」

リンゴの販売にとって良さそうなことは、インドの追加関税の撤廃により、同国が米国産リンゴの輸入ビジネスに戻ったということである。インドの追加関税は、トランプ政権が鉄鋼に関税を課した後、北西部の生産者に課せられていた。

フライホバー氏はまた、中国などのアジア市場はドル安で目覚めつつあると言い、リンゴの生産者と梱包業者は、インド市場の再開を非常に楽しみにしていると述べた。9月に追加の貿易関税が撤廃されて以来、ワシントン州の梱包業者はこれまでに約20万箱のリンゴをインドに出荷した。「これは、我々の果実、特にレッドデリシャスとガラに非常に関心を持っている市場に大量の果実を出荷するよい機会である。」

執筆者: アンナ・キング

スペイン 猛吹雪により上級品のカキが3~4割減少

FreshPlaza 2023年11月10日

先週末にイベリア半島を襲った強風により、東部を中心に、現在収穫期を迎えているカキなどの作物に被害が生じた。果実の落下や風による被害は、商業レベルで非常に良いスタートを切ったこの出荷シーズンに、上級品の果実の数量の減少につながると見られる。

バレンシア州のガンディア市に拠点を置くエクスキジットフルーツ社の幹部であるキコ・トーレス氏は、「昨年失った収穫量の大部分は回復したが、今シーズンは豊作ではない。弊社の推定によると、最近の猛吹雪による落果のため、これから収穫するはずだった生産量の約15%が失われた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

また、枝が強く揺れると果実に多くの傷が残り、商品価値に影響を与える。「上級品の果実は30~40%少なくなる。これにより、出荷シーズンの残りの期間、上級品の価格は11月に通常見られるような値下がりせず、安定的に維持される可能性がある。」

生産・輸出業者である同社によると、商業的な観点から今シーズンは最初から好調であった。「価格は当初から堅調であった。生産量が急減した昨年と比べ、すでに35%多い量を販売した。また、販売できる量が多い一方でより高い需要が見られ、これはおそらく弊社が毎年幅広い商品で行っている優れた販売活動の結果である。」

このバレンシア州の会社はすべての商品を輸出しており、英国、オーストリア、ドイツ、及び中東の一部の国で継続的な成長を達成している。これまではスーパーマーケットの販売チャンネルに全力を注いできたが、今年はハンブルク市などドイツの卸売市場での営業を開始した。「弊社はドイツの卸売市場で柑橘類とカキの自社ブランドを宣伝したいと考えている。小売業とは異なり、この販売チャンネルでは商品の品質だけでなく、見せ方やパッケージなど他の要素も評価されるため、ブランドの認知度と成長力が向上する。」